



大明小学校

# 校長室から

令和3年2月22日

No. 18

文責 校長 穴山 直樹

## 節目を生かすこと

2月も半ばをすぎ、卒業、修了の月である3月まであと数週間となりました。今年度は新型コロナウイルスの影響でさまざまな教育活動が縮小や制限をせざるを得ない中、子どもたちが心身ともにたくましい姿が多く見られますことは、学校、保護者・地域の皆様との共有の成果でもあります。心より感謝申し上げます。



日本を代表する植物である竹は、雪の重みにも強い風雨にも耐え、他の木々にはない、たくさんの節目をもって空に向かって真っすぐに成長します。わずかな風を竹全体で受け止めるしなやかさとともに、何百キロにも及ぶ力を反り返って跳ね返す力強さをもっている竹です。そのたくましさの秘密は、軽さと強さを併せ持つ規則正しい間隔の節目にあるとされます。そのような力を持つ竹は、種から発芽するまでに4年以上もかかり、その間に地下で1年に7～8メートルもの根を張って地上の竹を支える準備をされると言われます。

やがて芽を出した竹は、節目ごとに成長点をもつことで1日に80～100センチメートル成長し、2か月くらいで20mメートルにもなるものもあります。目に見える成長の姿とともに、目には見えない支える力のバランスは、私たち人間の生き方に大きなヒントを与えてくれます。節をつくり、外からの多くの力をしなやかに、力強く受け止め成長する姿は、子どもたちが目標をもってがんばろうと辛抱強く取り組む姿そのものです。学びの過程で、目に見える行動や成果だけでなく、それらを支える外からは見えない心の葛藤とともに意欲につながる努力の大切さや自分を支えてくれる周りの人たちへの感謝の心を教えてくれます。

真っすぐな心をもって、たくましく育ててほしいと願いは誰もが望む子どもの姿です。しかし、現実人間関係をはじめとする様々な課題や難題が降りかかることが多い毎日です。それだけに、それぞれの成長の節目において目標をもって進み、振り返ることが大切です。その積み重ねがしなやかさと力強さのもとになる節をつくり、これから出会う様々な困難に打ち勝つ知恵や力の源となることと信じています。

## 明日もお願いします。

毎朝学校北側車道の横断歩道と甲西中前信号機のところで子どもたちの見守りを石田さんと河口さんがしてくださっています。寒い日も暑い日も子どもたちのために見守りを続けて下さり、本当にありがたいです。その河口さんからとてもうれしい話を聞くことができました。先日子どもたちの下校途中に、河口さんが地域で見かけた男の子にお帰りと声をかけると、その子がただいま、明日もお願いしますとかえしたそうです。河口さんも3年間ほど見守りを続けてきたが、明日もお願いしますといわれたのははじめてでとてもうれしかったし、感激したと話してくれました。

2学期末の保護者アンケートからも地域での子どもたちのあいさつをもっとよくさせたいというご意見があり、学校でも3学期に入り、あいさつに重点的に取り組んでいるところです。河口さんからこのお話を伺い、私もとてもうれしくなり、保護者の皆様にご紹介したくなりました。

